

オリンピック・パラリンピックをきっかけに平和を身近に考える 広島大学附属幼稚園（東広島園舎）

1. 活動概要

本園は「豊かな自然や友達とかかわりながら一人一人がその子らしさを発揮し共に育ち合う生活を通して心豊かにたくましく生きる力を育む」という教育目標のもと、広島県が提唱する「感じる・気づく力」「うごく力」「考える力」「やりぬく力」「人とかわる力」の5つの力によるバランスのとれた生きる力を育み、また豊かな心情・意欲・態度を育むことを教育方針としている。今年度、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、ESDの基本的な考え方15項目とSDGs達成のためのキー・コンピテンシー8項目を日常の保育の中で総合的に育むことを目標として、SDGsの17の目標とのつながりを検討した。今年度、年長クラスそら組では、①7月：インドカレー屋のインド人の店員との交流②7～9月：パリオリンピック・パラリンピックを通して自国や世界に目を向け、身近な平和について考える経験③12月：ウロコイの防寒対策の小屋作り④11月～1月園の森の木を使った遊具・家具作りの4つの活動を行った。本報告では、②パリオリンピック・パラリンピックを通して自国や世界に目を向け、平和を身近に考えた実践活動について記す。

2. 活動の背景

広島大学附属幼稚園（東広島園舎）は、近隣に留学生が多く通う広島大学がある。幼児は定期的に大学に行く機会があったり、留学生が幼稚園に来園したりする。また海外からの視察も多く、日常的に外国籍の人に出会う。そんな中、今年度、6月に年少児クラスから一緒に過ごしてきたベトナム国籍の友達が帰国し、日本と諸外国を意識する機会となる。また、7月にインド人のシェフと交流したことから、インドと日本の文化を調べ、その違いに関心をもつ姿があった。このような経験を積み重ねる中、幼稚園は7月末から、夏休みに入った。保育者は、夏休み期間にある「広島平和記念日」「オリンピック・パラリンピック」から、世界にはいろいろな国やその国の文化があることに目を向けてほしいと願っていた。

3. 子どもの姿と指導の内容

夏休み前と夏休み中の幼児の姿や活動（7月末） ☆保育者の援助 ○幼児の気づき・学び

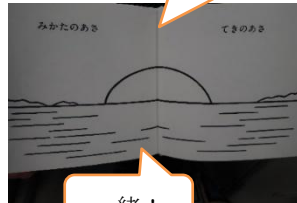
（1）絵本を見る、感じたことを表現する（7月末） ☆気づきの共有

「せんそうとへいわ」（プロンズ新社 たにかわしゅんたろう ぶん Noritake え）
幼児は、白と黒で描かれた絵を比べながら自分の感じたことを口に出しながら見ていた。保育者は、この時、戦争や平和についての話には触れなかった。

白と黒で
なんか怖い

子どもを守ろうとしてるんだよ

繋がってるって
ことか！



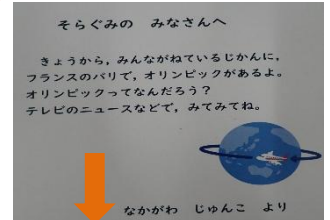
同じだね！

一緒！

「戦争」「平和」という言葉を知る/「戦争」と「平和」の違いに気付く
敵も味方も人としての存在は同じであることを感じる

（2）オリンピックの開催を手紙で知らせる

☆家庭で話題の共有
☆興味・関心の広がり
を支える



オリンピックに関心をもつ/
様々な競技、国があることを知る/
夏休み明けに開催されるパラリンピックの存在を知る

夏休み明けの幼児の姿や活動（8月末から9月） ☆保育者の援助 ○幼児の気づき・学び

（1）オリンピックの競技、勝ち負け関心を示す中で、国や国旗に興味をもつ 競技を真似て遊ぶ/メダルについて調べて作る/国の名前をダジャレを考える/国旗作りをする



リレーはカナダが強かった！



模様・色・国名が似てる



ダジャレ作ったよ



金メダル529グラムをはかりで計って
作ったよ！



いろいろな国と一緒にスポーツを楽しんでいることを知る/世界にはいろいろな国があることを知る
/世界地図や地球儀で位置を確認する/国旗の相似に気付く/国旗の相似から国同士の関係を想像する

→ ☆オリンピック旗の存在を伝える

(2) オリンピック旗について調べたことを共有する

オリンピック・パラリンピックの意味/オリンピック旗の色や配置/オリンピック旗の意味

☆調べたことを友達に伝えたい気持ちや場を保障する

○友達の話からオリンピックや国旗の色や位置の意味を知る



五輪は5つの大陸を表してる

世界中の国旗は、5色のどれかが入っている…

オリンピックは、平和の祭典って言うんだよ

5つの輪が絡み合って繋がっているから世界は1つ

(3) 保育者の質問に対して考え、クラスで共有する 自分の思いを伝えたり友達の意見や思いを聞く

☆5つの輪が絡み合って繋がっているから世界は1つという
発言を取り上げ、質問を投げかける ○思いや考えを巡らせる

Q.世界は1つだからオリンピックは
楽しめるけれど、けんかはしないの？

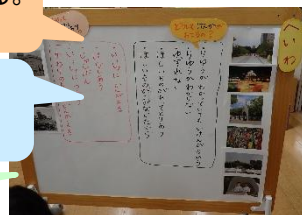
A.けんかはする。ウクライナとか今、戦争をしている。
日本も昔アメリカとしていた。

Q.どうして、けんかになるの？

A.理由は分からないから /理由が分かっているけど、
意見が違うから/同じものを欲しいから
譲りたくない気持ちがあるから

Q.そんな時、みんなはどうするの？

A.一緒に考える /話し合う



(4) 平和について考える 自分にとっての平和を考え、伝える

☆「平和」=幸せ・心地よいこととして置き換えて、考えられるようにする

のんびりするのがいい！

友達の家に遊びに行けたり
友達が遊びに来たりすること

発表

僕は静かで狭いところが好き

お兄ちゃんとゲームすること



戦争の時だったら、のんびりできんよ！

確かに！でもそれも、戦争の時は
難しい？爆弾とか…

友達の発表を受けて

それも難しいよ、
逃げないといけないんだよ

○友達の思いを知る・友達の思いを聞いて思いや考えを巡らせる・今ここにいない人に思いを馳せる

4. 実践活動の分析・考察

幼児は、年少クラスから積み重ねてきた経験から、諸外国にそれぞれが関心をもち、生活や遊びに取り入れ、考える機会があった。このような育ちがある中で、保育者の読んだ絵本から戦争と平和の違いだけでなく、戦争をしている国であっても敵も味方も人としての存在は同じことを感じ取っていた。また、「世界は1つだからオリンピックは楽しめるけれど、けんかはしないの？」という保育者の問いに対して、自分たちの生活や遊び場を想像し、思いを伝えている。けんかは、「理由が分からないから起こること」もあるが「理由が分かっているけど起こること」を実体験から知っている。そして、解決策としても「話し合えばよい」「譲ればよい」と、うわべではなく「譲れない気持ち」をもっているからこそうまくいかないことも知っていて、伝えている。さらに、1人1人にとっての平和を話していく際、友達の思いや意見を聞く中で、ウクライナなどの事象にも目を向け、クラス全体が遠く離れた人のことに思いを馳せ「もし、～だったら…」と、自分のこととして考えるような雰囲気となった。幼児は、いろいろな事象をかみ砕きながら考え続けていた。本実践は、ユネスコスクールが重点的に取り組む「地球市民および平和と非暴力の文化」「異文化学習及び文化の多様性と文化遺産の尊重」の分野において以下のESDの基本的な考え方(15項目)とSDGs達成のためのキー・コンピテンシー(8項目)の育ちが見られ、それらは以下のSDGs達成の目標(17項目)とのつながりが見られた。

ESDの基本的な考え方

- ・平和・国際理解・人権・ジェンダー平等
- ・文化多様性・環境・海洋
- ・その他関連分野

サステナビリティのためのキー・コンピテンシー

- ・システム思考コンピテンシー
- ・予測的コンピテンシー・規範的コンピテンシー
- ・方略的コンピテンシー・協働コンピテンシー
- ・クリティカル思考コンピテンシー
- ・統合された問題解決コンピテンシー

SDGs達成の目標

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 16 平和と公正をすべての人に

5. 保育者の振り返り・課題

日常の保育の中で、幼児の人や事物、事象に主体的にかかわる中で生まれた気づきが、持続可能な社会を構築する人材育成に繋がるということ意識し、その芽に保育者が気づき、種まきをすることで態度や育ちを支えた。また、幼児の積み重ねてきた経験の理解に努めた。本事例を含め、他事例においても幼稚園生活で幼児が生活や遊びの中で経験する感情や態度の多くは、SDGs達成に向かう芽であった。小学校や企業などでは、ESDやSDGs達成への取り組みにおいて、先に目的を決めて活動することが多いが、幼児期は気づきや発見を共有する中で、目的が生まれ、活動が広がる。次年度においても幼児自身の興味・関心をきっかけとして、目的に対する達成度だけではなく、幼児が主体的に取り組む姿や活動の過程を支えていく。